

研究紹介

美しいダンコウバイの分布の様子

新潟・長野県境付近を裏日本側における分布の北限とするダンコウバイという名前の植物があります。長野県内では人里近くの里山ならどこでも見られるありふれた植物です。三つ又に分かれた形の葉は一目見たら忘れません。早春には黄色い花をちりばめたように咲かせ、また秋には鮮やかな黄葉を見せてくれます。またダンコウバイは地層断面がむき出しのような急傾斜にも定着して成長できるという能力を持ち、長野県の渓谷などでは春や秋を彩る主役です。

ダンコウバイの分布を決める要素は、気温と積雪、地形によると考えられます。長野県内では東信地区の標高 1600m 地点を限界としてそれ以上には分布せず、それが寒さに耐えられる限界のようです。暖かさに関しては、暖かくなりすぎると病害虫や他の植物との競争があるためただ暖かければいいというわけにはいきません。新潟県の平野部などは暖かいですが生息はしていません。また積雪に関しては、信濃町南部や白馬村の年の最大積雪深が 1m 程度のラインを限界として、それ以上積もる場所では生きていけないようです。

しかしダンコウバイは急傾斜に定着できる能力を活かし、糸魚川など海岸沿いの温かい地域でも渓谷に沿ってのみ、競争を避けるようにして生息しています。雪の多い地域でも、信濃町・妙高市境界の関川の渓谷、栄村・新潟県津南町の千曲川やその支流の崖などに沿って急傾斜で雪が積もらない場所にて生息しています。

温暖化に伴ってダンコウバイの分布はどう変化するのでしょうか。内陸の気温差の大きい気候に適したダンコウバイですが、温暖化が進むと気的に分布に適した地域はより高標高地や、北方に移っていくと考えられています。しかし、積雪量は高標高地では温暖化により水蒸気の供給が増えるため増加するとも考えられています。雪にそれほど強くないダンコウバイは、長野県北部などでは暖かさと雪の狭間で急傾斜地のみで細々と生き残るようになってしまうかもしれません。今後とも北限近くの高標高地におけるダンコウバイの生存の状況を詳しく観察していきたいと感じています。

(柳澤 衿哉)



写真1 黄葉したダンコウバイの葉



写真2 1mの雪の上で咲くダンコウバイ